

## 第2回 日田スギデザイン会議 報告書

日時 平成27年11月17日(火) 19:00~21:00

場所 パトリア日田 市民活動室(ポポロ)

### <前回会議のキーワードにおける優先的に取組むべき事項について(発言者順に記載)>

- ツアー(林業体験、林業観光)、子供たちを山に連れて行けるようなプログラムなど日田の林業を知ってもらえる仕組みづくり
  - ・山を知り、見てもらえる良い機会となり得る。
  - ・一次産業から三次産業まで日田市内で見せることができる。
  - ・これまでもツアーの企画があったが、安全面や準備に時間を要するので実施頻度が少なくなる等の課題。
  
- 豆田や隈の観光客などが木や木材を短時間で感じれるような施設
  - ・製材所で観光客を個々に受入れ体制を整えることは難しい。(費用、人員等)
  - ・閉校利用は利用者数・立地条件等でハードルが高い。
  
- 現在製材している建材での新用途や新商品開発
  - ・見せ方や陳列方法をデザインすれば現状でも順応できる可能性はある。
  - ・先行事例で意外性のあるものが多くある。
  
- 「森の活用」と「ものづくり育成伝承」を一体的に実施
  - ・あちこちに行かずに済み、第2の観光地になり得る。
  - ・森の中で楽しむ姿を外に対してオープンに見せていくことで集客を図る。
  - ・既存施設でも改修して良いものになる可能性を秘めた建物がある。
  
- コアとなる施設が必要
  - ・催し物ができる施設、森の宿、フォレストアドベンチャー、保育のできる施設の4つが実現すれば、多様な目的地となって、そこで完結できる場所となる。
  - ・星野リゾートは自然や素材に頼りすぎずに、サインもきちんとデザインされている。森の中にどのように高級感を出して泊まってもらいかまで考えられている。
  - ・外部の民間企業と協力するのであれば、運営をきちんとしておく必要がある。
  - ・企業のネームバリューの影響は大きい。
  - ・立地による影響も大きい。
  - ・ハードを一からでは資金がかかりすぎるので既存施設の利用も検討。
  
- 木工所やものづくりのマップ、日田市の町中でサイン標識を統一、公共の場所でのベンチや店舗での木質化を進め、日田杉の見える化による意識付け

優先的に取組む事項については各々で差異はあるものの、本会議のスケジュール上、短期的で実現可能なものにも取り組む必要がある。これらを踏まえ、短期的に取り組めるものを再度検討し、会議を進めていくこととする。

#### <短期的に取り組める内容を再検討>

- 外部に対して日田をプレゼンする際の材料としての映像
  - ・賛同者を募るツールにもなる。
  - ・日田市内で山から運輸、市場、製材、木工所の流れが撮れることも大きい。
  
- 視覚的に木材に触れられる場所を増やし、それらが観光地や町中等へ誘<sup>いざな</sup>うようにする
  - ・バス停、バス停や川沿いのベンチ（虫や盗難、水害対策）、街路灯、標識・看板やサイン、ガードレール、飯台、場所としては駅や高速 IC 付近等
  - ・PR する素材にもなる。

短期的な計画と中長期的な計画を並行していかなければならない。短期的には日田杉の見える化を進めていく。まず町中にどうやって木を感じられるかを次回から検討していく。

その一方で、中長期的な取り組みについても全体を俯瞰したときにどこの土地・山がいいのかも考えていかなければならないので、個々でアンテナは張っておく。常に頭の片隅にはあって、機会が来たときにいつでも実行できるように下準備を進めていく必要もある。

次回会議では日田杉の見える化に向けた課題として、町中でどのようなことができるか、どういった形をとれば実現できるか、また日田をプレゼンする際の資料（ビデオ等）についても検討。

次回会議 （予定）

第3回日田スギデザイン会議

日時：平成27年12月22日（火） 19時～

場所：パトリア日田 2階 市民活動推進室（ポポロ）